

北海道・別海実蹟地で「一週間会員研鑽学校」を開催

別海実蹟地を会場に3月10日から17日の一週間、道内会員の熱い要望が稔り研鑽学校が開催されました。この地域の季節柄ではありますが、最終日に久しくなかった大暴風雪となり、全員帰れず、もう1日全員で補講(?)のような過ごしとなった研鑽学校でした。

参加者は道内会員13名、道外会員3名、お世話係3名、聴覚障碍通訳お世話係1名、食助っ人お世話係1名。別海実蹟地メンバーにもお世話になり、共に創った一週間で、夫婦での参加も複数あり、有意義な面白い研鑽学校となりました。

「研鑽=実践」を研鑽していくことが日常生活に直結している感じがしました。寝食ともにしながら研鑽を通して1人1人の考えや持ち味がくっきり出て、お互い見合いあえるのも良かったです。研鑽会で創造される研鑽内容に「自己を生かす」の実践の連続をやってみたのは、とても新鮮でした。どこにいても、なにをしても笑い声の絶えない一週間研鑽学校でした。参加された3人の感想を紹介します。

(中標津町・T.M)



札幌市・T.Mさん(70歳)

今回、別海実蹟地で一週間の研鑽開催を実現した地元会員の熱意で参加を決めました。私は夫婦で参加したい思いで、一緒に行ける環境を会員、スタッフの皆さんに用意してもらい一致した所で参加しました。

「研鑽=実践」の一週間、別海の雄大な自然の元、実蹟地のひとと共に日々実践テーマで皆と暮らしを味わい、実践作業は乳牛部の哺育施設で受け入れてもらいました。共にテーマでやってみてを伝えてくれた時「今を見ている自分も、他の仲間が見ている事実も、さらに世話している仔牛の目線も、共に見て考えることで世界が広がり、一体感を感じ職場や社会が良くなって行く」を聴いてハッとしました。

それは、実蹟地の仔牛達が、哺育舎全てが静然としていたことです。他の酪農家の哺育舎では、人を見ると騒がしく鳴

く情景が記憶にあり「何か違う」。零位に立って事実を今、そのまま見て、聞いて、あなたの考えも私の考えも全部尊重します、がそこに顕れて「ここちよい」と感じました。

札幌市・M.Mさん(69歳)

難聴の私は、大勢の研鑽会は話が聞き取れず参加は無理だとあきらめていた。日頃、夫との暮らしでも、聞き違いが多く衝突ばかりで、憂鬱だった。

そんな私に「一緒に行こう。すべて提案してさ」とライン仲間が背中を押してくれ、夫と参加した。会場では、私に専属筆記通訳の係さんがいて、私の耳となり、瞬時に皆の話を筆記してくれた。係さんと一体となり「私はそのままの私で」真剣に楽に研鑽会に没頭できた。本当に嬉しかった。仲間も高齢となり足腰が痛かったり、持病があったりしていたが、無理せず参加できるよう配慮された研鑽学校だった。

「零位」のテーマでは、階段の上がり下りの例から、20年位前の研鑽学校で係さんが「研鑽会場の戸を開けて閉める所作がやっとできるようになった」が頭によぎり、「あっ、これだ!」と結びつき合点し、「零位」が腹におちた。それからが実践や研鑽会がより面白く楽しくなった。美化作業の実践で「整理研やらないです」と出した人と、「やりたいです」と私の思いを出して寄って聴いてやっていくうちに、その人といつの間にか一緒にやっているという「思い」と「事実」が反



出発の日、大暴風雪で交通機関はストップ、ロビーで実蹟地メンバーと交流も出来ました

転した場面があった。

自分も相手もそのまま良く、共にやる事で内面がいつのまにか変わっていく体感ができて楽しかった。「研鑽＝実践」で一週間やってみて、自己を活かす場やきっかけはどこでもあり、先ずは一緒に参加した夫と同じスタートに立って、すぐに実践できるのが楽で嬉しい。そこが夫婦で参加した醍醐味かなと思った。

「まず私が幸せになっていく」が全人幸福の一番の近道なのかな。みんな違って、みんないい。こんな私ですが、これからもともにやらせてください。

札幌市・Y.Kさん (70歳)

「皮を削いで2センチ角にカット」と、昨夜食べた文旦の皮を渡された。これが私達に与えられた係からのピール作業の

案内。マッチ棒ピールが浮かんで2センチの正方形(?)、まあ良いかとカットしていく、定規で測るとあらま2ミリ足りない。これが後々私のテーマとなる。

係の言葉を私はどう聞いた? 聞いてどう考えた? そしてどうやったか。係は2センチ角、私は自分の思いだけで軽く聞いていた。これが研鑽学校の作業という自覚もなく、手伝いや仕事の感覚で捉えていた。相手の考え思い、私の考え思い、お互いを尊重する…研鑽会場でのそのテーマにハッとした。全く自分の思いだけで聞いていた。相手の考え思いを聴いていたのか、聴いていなかった。その時聴く時には、同じ立ち位置でいなければお互い尊重出来ないのでは、同じ立ち位置って、それが零位? 聴く時には零位の立ち位置で聴かないと、お互い尊重出来ないと感じた。

笑いの絶えない愉快で楽しく面白い研鑽学校を体験し、改めて零位で聴くを「研鑽＝実践」して行こう思った。

3月末 `春の子ども楽園村、を2会場で開催

春休み期間の3月26日～29日は三重県・豊里実顕地、3月27日～30日は埼玉県・岡部実顕地を会場に `春の子ども楽園村、を開催しました。今回も楽園村で育った若者たちが大活躍。親世代のスタッフと一緒に頑張って楽園村を創りました。

その楽園村にスタッフとして参加した人に、感想を寄せてもらいましたので紹介します。

豊里会場 (3月26日～29日・3泊4日)

子ども達の成長に触れることができて嬉しい

徳島県 S.T (22歳・大学生)

今回でスタッフが3回目ということで、自分の中でも慣れてきたと思う中での楽園村でした。

相変わらず子ども達は元気いっぱい、たくさん遊び、たくさん振り回されました。しかし、子ども達が全力の笑顔で遊ぶ姿を見ていると「ボコボコにされるけど楽しそうやし良いか」と思えました。子ども達の笑顔が僕の活力になっていました。

今回、僕は小学校3年生の男の子を担当していたのですが、彼らはお風呂の前に、僕が呼びにいく前に「お風呂いくでー」と逆に声をかけに来てくれたり、僕が彼らを呼ぶ前に僕のこ



みんなでピザを焼きました

とを見つけて集まってきてくれたりしました。僕たちスタッフが子ども達を集めるのに苦労しているのがバレていたみたいです。その姿が可愛くて可愛くて仕方なかったです。

楽園村という短い期間の中でも、子どもは成長すると気付くと共に、その成長がとても嬉しいと思う自分がいます。その成長を見守れるスタッフができて、本当に幸せでした。今後は企画の段階でスタッフ同士で情報を共有し、話し合いをしながら子ども達が楽しめるように準備していこうという話も出ていました。僕も積極的に参加し、少しでも力になればと思います。

新しい自分の学びをスタッフを通して挑戦する喜び

東京都 Y.M (20歳・大学生)

楽園村スタッフをやってみて、私は今回3回目のスタッフをやりました。初めてスタッフをした時は、最初とても大変でやる事がとても多くて、子どもが見えないところに行かないか注意したり、お風呂上がりの子たちの頭を一人一人乾かしたり、普段の生活でそのようなことをする習慣がなかったので、内心とてもバタバタしていました。でもだんだん慣れて子ども達とも仲良くなってとても楽しいなと思いました。スタッフ同士で相談して行動したり子ども達に甘えられてとても可愛いなと思ったり、そのような経験はこの楽園村スタッフでしか味わえない楽しさだと思います。



2、3回目のスタッフはかなり慣れて、次の行動を先読みしたり、子どもにダメなことはしっかりダメと言えるようになったりなど、たくさんのことができるようになりました。そして、慣れて初めて企画内容を考えるということをしました。時間が限られている中で、今までやったことのない新しいゲーム内容を考えて、準備をして実際にするというのをやって、結果とても楽しかったといってもらえて嬉しいなと思いました。小さな子どもも平等に全力で楽しめるゲームを企画することはとても大変で、今までのスタッフはこのように当り前に堂々としていてとてもすごいなと思いました。ですが、やり終えた後の子ども達の反応と自分でこの企画をやったんだという達成感は、とても気持ちいいものだと感じました。これからも新しい自分の学びになる挑戦をしながらスタッフを続けていきたいと思います。

岡部会場（3月27日～30日・3泊4日）

初めて楽園村全体を見る役割をやってみて

埼玉県 H.O（26歳）

今回、岡部で春の楽園村を開催できたことが一番良かったです。子どもの人数は冬の時より少なかったですが、無事に送り出せて嬉しかったです！

そして、今回急遽、初めて自分が全体を見る役割になって、緊張と上手くできるか不安もありましたが、周りの大人やお兄さんお姉さん達のおかげでやれた気がします。反省点は多々ありますが、子ども達もスタッフも元気に終われて良かったです！

冬に来てた子ども達も半分くらいいて、嬉しかったし、久しぶりに会えた子もいたので嬉しかったし、大きくなったなと思いながら、寂しくもありました。

今回の5、6年生がしっかりしてて何も言っていないのに洗いや物を手伝ってくれたり、低学年の面倒を見てくれたりとさすが高学年だなと思いました。



女の子が4人という少ない中で喧嘩も多々ありましたが、様子を見たり、どうしたらいいかと考えながら関わっていくのが難しいと思いました。面白い、不思議と思ったこともありましたが、喧嘩したと



思ったら仲良くなったり、仲良くなったなと思ったらまた喧嘩してたり…（笑）。

普段、小学生と関わる仕事をしていますが、毎回喧嘩の仲裁に入るのは大変だけど、お互いの気持ちを聞いたりしていくのが一番いいのかなと思って、行動しています。今回も豚を見れたり触れたり、夜、5・6年生と一緒にウィンクカラーやハンカチがなくてボール落として遊んだり、恋バナとかも聞けたりしたのが楽しかったです。

6年生に会えないのは寂しいけど、これからも楽園村を創っていきなさいと思います！

楽園村スタッフを初体験

宮城県 T.N（30歳）

子どもを楽園村に参加させたかったので自分も一緒にスタッフに入らせて貰いました。

最初、子ども達とは初対面だったので仲良くなるには少し時間がかかるかなと思っていましたが、そんな事は全くなく子ども達の方から気さくに声を掛けてくれたり一緒に遊んでくれました。子ども達もすぐに楽しそうにしてくれて嬉しかったです。

2日目の職場体験の養豚部で、仔豚は食用にする為に育てていると聞いた際に、子どもが「可哀想」と言っていました。自分達が食べている物を身近に感じる事ができて、こんな体験が出来るのも楽園村の良い所だと思いました。ピクニックに行った時に小さい山からソリ滑りをしていたのですが、子ども達が楽しそうに遊んでいました。やっぱり体を動かして遊ぶと良い笑顔になると思いました。

この楽園村で初めて会った子もいるのに、みんなが友達になっていたのが良かったです。またスタッフに参加して子ども達に元気を貰いたいと思いました。

スタッフでのいろいろな経験が自分の成長に

埼玉県 R.Y（21歳）

春の楽園村に参加して、私はとても成長を感じられた。元々誰かの後ろに隠れているような性格だった自分が、今回の楽園村では人の前に立つ機会が多くあった。しかし、嫌な訳ではなく、とても楽しいと感じている自分に驚いた。まだ、不

研鑽学校予定

●会員一週間研学

日程：8月2日（土）～9日（土）

会場：決まり次第お知らせします

費用：33,000円（税込）

夏の子ども楽園村

●三重県豊里会場

日程：7月30日（水）～8月2日（土）3泊4日

対象：小中学生 定員：50名

参加費：20,000円（税込）

慣れでスムーズにできてはいなかったが、今後の楽園村などで頑張っていきたいと思った。

ここ1年間、私生活でたくさんの変化があり、前向きな気持ちになれていなかったが、楽園村スタッフでたくさんのごことに挑戦でき、刺激をたくさんもらい、前向きな気持ちで新生活を迎えることができて、今回のスタッフ参加が本当に良かったと思った。これから、この気持ちのままどんどん進んでいきたい。

生活スタッフをやりながら自分をみる

宮城県 M.S (72歳)

何がしたいも無いまま岡部に行きました。感度がかなり鈍くなってる自覚だけはハッキリあったのでした。

大勢の人の中での作業の時、何一つ思い通りに進まないものだなあと思いながら悶々としていました。その中で、責める気持ちが出たり、責められてると勝手に思っている自分に気付いたりしているうちに、何故か楽しくなっていました。

そうこうしてるうちに集中できるようになったのか、作業に没頭していたら、責める、責められる等と湧いてくる気持ちはどうでもよくなっていました。

だんご作りのゴマだれを任された時、私のイメージのたれに固執していたり、かと思えば45年も前に亡くなった母と作った風景が突然甦ってヒントになったりと、不思議な体験でした。

サブテーマ「軽く出す、が私には重く、日常的に練習がもっとももっと必要と思いました。」

4月13日・岡部実顕地で「春のつどい」を開催！

テーマ『持ち寄りで作る春のつどい』で開催しました。あいにくの雨でしたが、会場を結ぶテントが回廊のように張られ、色んな工夫とアイデアあふれる「春のつどい」となりました。「雨なら雨で」イヤ「雨だからこそ！」そんな風に思える楽しいつどいでした。

宮城県から参加のT.Nさんの感想

家族の入院介護失職等がやっと一段落したら「みんなの顔が見たいな～」と思えた。

つどいの申込みのやりたいこと（お店）欄に、深く考えず、カラオケの店と入れた。その後、卓球の店も…。どちらもやれてもやれなくてもいいし～という軽いノリ。

準備研で皆、食べ物の店をやる気満々で語り合っていて、だんだん恥ずかしくなってきて発言出来なかった。でもその後、今回の「つどいグループライン」で反応してくれて、それだけでも嬉しくて満足だったのに、やり取りを重ねて結果どちらも開店して楽しく味わうことが出来た！なんて不思議！重ねたのは持ち寄りの心かな。

また、前泊者が使った寝具カバーの洗濯を朝やった。一緒にやってたMちゃんが途中、消えた。でも「じゃどうしよか？」と淡々と状況に合わせていくだけの私がいた。別の人々が「やろうか？」と声かけてくれたので、今度は私がそこを任せて離れた。

この楽な心境！皆の中の私。1人で考えて1人でやるん



じゃなく、周りに人がいる、という安心感。声を発すれば寄ってもらえる（声を出す前に寄ってもらうことが多々でした！）。1人で背負わず心を重ねて事が成されていく世界。お握り隊に入れないけど、洗濯機を回していたら、お握りが出来上がっている。誰かが私のかわりに動いてくれて、私も誰かのかわり。実社会はそうなっているのに見えなくなっていた。改めてここはそれがわかりやすく顕れている場だと思った。

沢山の持ち寄り（の心）を味わい満たされました。最高に嬉しかったのは大人になった元楽園村っ子達が自ら挨拶してくれたこと！老婆心満開の幸せ気分で帰宅しました。



奈良のみどりの木（関西事務局）での「あおぞら市」と「手づくり市」

「あおぞら市」をやり始めて 15 年が経ちました

奈良県 S.K

この地に引っ越して来て整骨院を始めた福崎一家のつながりができればと言う思いと、ちょうど奈良供給所が無くなりヤマギシの生産物が手元に届くのが当たり前では無くなった機会が重なり、自分たちが食べたい卵や野菜をお取り寄せして、ご近所と分け合う市がやりたいねと言う何人かで始めました。

その頃から駐車場で声かけてからずっと繋がっている人や、サロンを始めてから知り合った人、友だちの友だちみたいに繋がって来た人、30 人ほどの声かけリストがあります。今はちょっとお休みの人も、どうしてるかな？と気になって、今回は「手づくり市」に声かけてみました。反応があったら嬉しいし、なければないで、また、今度…。

「あおぞら市」があるおかげで、私の心はいつも耕され、豊かにほっこりさせてもらってます。



楽しい仲間の輪を広げてこれからも続けたい

奈良県 Y.K

奈良供給所の閉鎖がきっかけで、手探りで始まった「あおぞら市」。もう 15 年になるそうで、月日の経つ早さにびっくりです。

私はほぼ毎回出席ですが、月一回の開催日と別日の卵お届けに参加しているだけで、発注や取りまとめは他のメンバー任せです。始めた頃は「お手伝い」気分でした。今も動きとしては手伝いの域を出ませんが、品物取り違えや計算間違い、荷物が届かない等のトラブルがしょっちゅうあり、その度に皆でどうするか考え、皆で対処していくうちに、失敗やトラブルに動揺しなくなりました。

また、長く続けているとメンバーやお客さんや村人とも交流が深まり、毎回会う人もたまにしか会えない人も、会えば親しく会話が弾み、話をしていると気付かされる事も多いです。

手伝いで始めた「あおぞら市」は私にとって、楽しい交流の場になっています。今後も楽しい仲間の輪を広げて、一回でも多く続けたいと思っています。



地域の人達との新しい出会いを願って

奈良県 K.O

4 月 29 日、奈良みどりの木で第 1 回「手づくり市」を、地域の人達との新しい出会いを願って開催しました。

小物入れやアクセサリなど 10 名の出品がありました。どの作品も魅力的で見ているだけで楽しい気分。一緒に平飼いの精卵や甘夏も紹介しました。

会場は常に賑やかで、出品者の方も会場に来ていただいた方も作品を見ながら話に花が咲きました。

開催にあたっては初めてのことでわからないことだらけ。どうする？ どうしよう？ とみんなで考えたことが楽しかったです。初対面の方も積極的でみんなで作る「手づくり市」になりました。

初めてみどりの木に足を運んでくださった方もあって、このご縁をこれからに活かしていきたいです。

「手づくり市」またやりたいなあー

兵庫県 M.U

きっかけは、定年退職した主人が趣味でやってるマクラメアクセサリやタペストリーなど作っていて、それまでに作っていた物も沢山あって、私は「こんなに作ってどないするねん？」と思って、みたいな話を河合さをりちゃんに話した所、「みどりの木で手づくり市やるから出して」と声をかけてもらって参加しました。

私は、毎日仕事して義母のお見舞い行っていて忙しくてたのですが、主人は着々と手づくり市に向けて準備していました。

当日も、私は手づくり市で、のんびりしよう、と思って参加しました。少しだけ準備を手伝って、作品見たり、作家さんと話したり、久しぶりに会う人と喋ったり、たまに主人のマクラメ見てる人に説明したり、気ままに過ごしました。

帰りの電車で、心がスッパリしてるなあ、これが「リフレッシュ」というやつやな！て、思いました。家に帰ってから、主人も楽しかったように見えたんですが、それは私が楽しかったからそう見えるのかもわかりませんね。みんなで楽しい時間にしましょう、みたいなやんわりとした感じの手づくり市でした。またやりたいなあー



◇みどりの木での活動はインスタで詳しく紹介しています。
アカウントは「midori_no_kiya」です。

豊橋では毎月「子育て講座」をやってます 愛知県豊橋市 S.I

豊橋で月1回の講座を始めて17年。始めた時と同じく今もお母さん達と「どんな子に育てほしいか」を考えています。

先月の4月4日(金)は春休み企画で、お母さんは講座、子ども達は花見団子作りをし、いつもお母さん達から聞いている子ども達に実際に会う事が出来ました。



今月5月2日(金)はGW企画で、お母さん達と肉まんを作りながら食べながら、子育ての話をしました。子ども達が小学生くらいになるとなかなか会う事が難しくなってきますが、連休などを利用して、子ども達の育ちをみんなで見合い、そして講座で子ども達の顔を思い浮かべながら、一緒に考え合っているところです。



6月は6日(金)10時半～です。場所は豊橋栄校区市民館で、午後からは幸福研をします。どなたでも参加オッケーです。どんな感じかのぞいてみませんか？(連絡先・メールで chachaseiko_2020@ezweb.ne.jp 井上聖子まで)

5月連休に関東で「親子のつどい」を開催しました 東京都 Y.K

5月3日～5日、岡部実顕地で関東では4回目となる「親子のつどい」を開催し、仲良し大家族、をテーマに1歳～72歳の28人で、ご飯作りも含め、みんなでゆったり楽しく暮らしました。



この季節ならではの、新玉ねぎ収穫・筍掘り・柏餅作り、そして親同士の子育て談義！

風が気持ちいい季節なので、お外でランチを2回。最後の日、空高く泳ぐ鯉のぼりの下で毎回恒例の「おにぎらず」を頬張り、お母さん達が試作を重ねて作ってくれた「鯉のぼりのゼリー」に感嘆！

お楽しみ会も思いっきり楽しみ、最後には「ずっとここにいたい」「帰りたい」と、子どものやってみてを聞きながらの解散となりました。次回は秋に！

四国・観音寺の「すだち収穫」は9月に予定 兵庫県 R.Y

4月5日(金)、北条の幸福研メンバーと観音寺実顕地の「すだちの剪定」を行いました。秋には収穫のイベントを開催したいと思います。9月13～14の土日、一緒にやりませんか。興味がある方は是非参加してください。(問合せ・吉田竜三 090-5465-8353 まで)



関西の若者たちが「みどりの木」で「ごはん会」を始めました

「自分のことをしっかり考えてみたい」「何かのテーマで探してみたい」そんな声があって、研鑽会と食事をする「ごはん会」を毎月1回、第4土日にやっています。

「そのまま出す、そのまま聞く」に取り組む

愛知県 S.S

若者の集まりを開催していくうちに、友人や自分自身のライフステージの変化を感じるようになりました。若者の集まりでは、遊びと生活を共にすることで生まれる「楽しさ」があります。その楽しさを、生活が変わっても味わい続けていたい…と思いました。まだまだ探し中ですが、今は一旦、「そのまま出す、そのまま聞く」が楽しさの元なのかなと考えて進んでいます。

そんな「そのまま出す、そのまま聞く」を、顔を合わせてやれたらいいなと「ごはん会」を始めてみることにしました。

過去2回を振り返ると、やっぱりそのままやるのは、簡単にはできないなと思います。色んな思いがくっついて出した時には、「私はどうしたいの?」と話す途中で分からなくなったりもします。人の話を聞いていると、自分のエピソードが浮かんできて、すぐに自分流の捉え方で聞き始めているのに気づきます。

それでも、研鑽会で自分と違う環境や感じ方を聞けるのはおもしろいです。これが更に「そのまま」でやれたら、もっとおもしろくなるだろうなと思っています。

同年代の人達と集まって話す場がある心強さ

徳島県 S.T

今回のテーマは「今何をしてるのか、何を考えているのか」でした。ゴールデンウィーク明けからようやく働き始める事が決まりましたが、かなり急な話だったため、まだ頭がついていない状況での研鑽会でした。今何をして、何を



を考えているのかを話すことで、今後自分がどうなっていきたいのか、その理想のために今すべきことがなんなのか、少し整理することができました。

自分の考えを包み隠さず話す機会はそう多くないですが、これから先を生きていくことを考えると、同年代の人達と集まって話す場があるという事がとても心強く感じました。ぜひこれからもこの会に参加し続けられたらいいと思いました。

九州・調理実習室借りて「ちらし寿司と桜餅」づくり

佐賀県 K.K

3月の福岡幸福研は、皆で集まってちらし寿司と桜餅を作りました。

まず、ちらし寿司の準備です。大きな木桶に酢飯を広げ、錦糸卵や絹さや、にんじん、しいたけ、そして色鮮やかな桜でんぶや刻み海苔をたっぷりと飾り付けると、色とりどりの春の景色が現れました。

みんなで協力して具材を切ったり、盛り付けを工夫したり。

それぞれ家庭ごとに厨房の流儀があって、その違いに気付いたという気づきがありました。とはいえ経験値で勝る仕切りには、丸ごと受け入れるより他に手はなく、男として思う自分の思いと事実とは別のものなんだとみんなの思いに合わせてみました。

桜餅の葉を巻く手つきにも、どこか細やかな雰囲気が漂いました。お互いの流儀に触れ合いながら、料理を通じて心も体もほぐれていくのを感じました。

みんなの知恵と情熱が一つになったちらし寿司と桜餅は、まさにけんさんの賜物。次はどんな色どりが加わるのか、密かに期待しつつ、またこの刺激的な宴が楽しみです。



ひろば



韓国実顕地に行ってきましたあ

愛知県豊橋市 T.K

韓国実顕地では、私が思う、ヤマギシらしさを感じる事があったり、なかったりでした。

いろいろありましたが、1つずつあげると、ヤマギシらしいなあと、感じたところは、初めて会った方々がいるなかでも、居心地がよくて、とても暖かく迎え入れてもらえたことです。

違うと感じたのは、1つ屋根でなく、それぞれの家族が一軒家で、シャワー、トイレ付きに暮らしていた事です。

〇〇らしいは、(最近特に男らしい、女らしいは、死語ですが)わたしが勝手に思ってることで、その時代や考えでヤマギシらしさも変わって行くんだと感じました。新しいヤマギシを見てきました。

今回の旅でも、それぞれのメンバーのらしさ、が、生きた旅行だと思っていました。

飛行機やホテルの手配、渡航までにやるべき事を調べてくれたり、不安に思うことを共有したり。さすが、〇〇らしいなあとと思う反面、4泊5日過ごす中で、私が思っていない姿を発見したりで、とても新鮮でした。〇〇らしさは、なんだか、自分や人を固定してしまうなあと。その時、その場の人や事柄を素直な目でみて新しいものを感じて暮らして行きたいと思った旅でした。そして、自分だけでは、出来ないことをみんなの力を借りて行く事が出来た旅で、



なんでも自分でやらなければと思う私でしたが、今回は色んな事も重なり、乗っからせてもらって、とても、楽で、楽しい旅でした。

もう1つ、着たいと思ってたチマチョゴリ、一緒に着る人がいなくて、辞めようと思いましたが、背中を押してくれる人がいて、着ることが出来ました。写真嫌いの私ですが、最近では、過去最高の1枚の写真になりました。

楽園村のバトン

福島県いわき市 K.S

私には、社会福祉士・看護師・特別新学校教諭に就きながら子育て中の娘が3人いる。年齢は37歳、39歳、44歳、それぞれ2人または3人の子育てに奮闘している。



私の家族(娘や孫たちと)

その3人の娘たちが、最近子育てについて口を揃えて言うことがある。それは、自己肯定感を高め、豊かな心を持つ人に育てるためには、先ずは無償の親の愛情を注ぐこと、もう一つは自然体験や、本物の体験を積み重ねることと言い切る。「私も同感だ」と言うと、「それはお母さんから受け継いだものだから当然」と言う。

私は、子育ての中で、子どもの群れ体験が大事と考え、娘たちが幼稚園・小学生・中学生の時、何度も「ヤマギズム子ども楽園村」に送った。夫や義母に反対されても、「体験が大事」と毅然として楽園村に送り続けた。その母親の姿は自分たちの子育てに大きく影響しており、キャンプや登山、海などの自然体験、スポーツ、コンサート、地域活動、ボランティア活動、旅行するなど、できる限りの体験を子どもにさせると娘たちは言う。特に楽園村の体験は、いつでもどこでも誰とでも関わっていける心の力のベースになっていると感じているとのことである。

心の世界の体験

春の味覚「たけのこ」が今年是不作とのニュースが流れ案じていた矢先、豊里実顕地から受け入れ可能との連絡が入った。早速、有志がたけのこ掘りへ、午後からは暖かい日差しの下で皮むきを数名で輪になってすすめる。

T子が慣れた手つきで次々と皮の部分の押し切り器で縦に半分切り目を入れたものをはいでいく。ときおりHがコンテナに山盛りになった皮を踏みつける。

昨年は自分も加わった。どこまでむいたらよいものか迷いながらも白っぽい実の部分が見えてきたときは感動的だった。ふと芥川龍之介の『蜜柑』の一場面が思い浮かんだ。“暖な日の色に染まっている蜜柑がおよそ五つ六つ、汽車を見送った子供たちの上へばらばらと空から降って来た。”そんな満ち足りた空気に抱擁(つつ)まれた。

今年はむいたたけのこを、大きな回転釜に米ぬかと唐辛子を入れてゆでる「アク抜き」を担当した。翌日にはたけのこ飯や若竹汁や煮物や天ぷらや春巻きの食材にと、調理がはじまる。こうした二百人規模のありふれたある日の厨房光景にすぎないのだけれど、あのたけのこの皮むきでのひとときは今でも忘れがたい。

以前、北条実顕地の荒瀬崎次(1917-2016)さんが八十四歳の頃、本紙「けんさん」で次のように発言されていた。“「ヤマギシズムいうたらな、難しゅうとるけれど、元は簡単や」とも言うてね。そんな元がどないか知りたいもんやと思うとったが、二三年ほど前、青本見よったらな「われ、ひとと共に繁栄せん」とちゃーんと書いてある。わし、そこへ行きつくまでに40年かかった。”(2002.11) えっ、どういうこと? こんな昔から言いふるされた言葉に40年もかかった?

荒瀬さんはふり返る。例えば次のような体験があった。

実顕地立ち上げの頃資金繰りに困った。杉本(実顕地造成世話係)さんに相談したところ、「鶏に餌をやらんなんということを頭から外して考えたら」と言われた。そんな無茶苦茶な。鶏を飼うとって、餌やらんでよかったらこんな苦労はしない。今でこそ笑い話やけど、借金は出来るだけしとるし、もう食うもんもなかった。でも切羽詰まっ



てその気になってやってみようとした。

その頃、色物(羽の茶色い鶏)の廃鶏が一羽三百円していた。鳥屋が「廃鶏おまへんか」と言ってまわってきよった。一日七羽〜八羽集めてかしわ屋として成り立っていた。それで卵を産まん鶏を徹底的に探し、売ってしのいだり、なんやかんやできりぬけてきた。“命がけで見ていたから、すーっと鶏舎の前を通るだけで卵を産まん鶏は一目で分かるようになった。理屈でなんぼ分かっているても実行せなんだら、効果は出ない、そのことが身にしみて分かった。そのことが分かりだしてから、なんぼか楽になった。”という。

本当にそうだなあと思う。「そこへ行きつくまで、が容易ではないのだろう。しかもそんな「無茶苦茶」を真面目に受け入れてしまうところが、変り者の変り者たるゆえんだろうか。

あらためて、会旨「われ、ひとと共に繁栄せん」を理屈抜きで「身にしみて、分かったとは、どんな心の状態なのだろうかと想いをはせてみる。いろんな試練受けて、よし失敗しても、「やっぱりこれだったなあ」と事実その中に飛び込む心の世界の体験のことだ。きっとここまでやれてこれたのも「共に、やってきたからではないのだろうか。

主体はわれも、ひとと抱擁(つつ)みこんだ「共に、に あった! そこから何かほのぼのとした温かいものが伝 わってくるようだ。(佐川清和)

よく見れば薺(なづな)花咲く垣根かな 芭蕉

●「ヤマギシ会 LINE マガジン」登録募集中

ヤマギシ会の企画、特講や研鑽学校の日程、各実顕地開催の企画や行事、各地の研鑽会など、LINE マガジンでお知らせしています。希望される方は、QRコードから登録をして下さい。



●幸福会ヤマギシ会の活動経費への「協力金」お願い

現在、会員のみなさんからの会費徴収は行っていません。会の活動・運営費用などは、心ある人の持ち寄り協力金(カンパ)で運用しています。ご協力をお願いします。

- ・振込口座：ゆうちょ銀行
- ・口座名：幸福会ヤマギシ会本部
- ・口座番号：00860-8-62321